

令和2年度 世界遺産登録推進県内巡回講演会（長岡会場）質問&回答

質問1

- ① 江戸時代長安以前の金の生産状況（上杉時代）。
- ② 江戸時代の御用船での金の積み出し状況（小木港？）。

[回答]

- ① 江戸時代以前の金生産については、詳細な記録が確認されていないため、佐渡における正確な金生産量は不明です。

ただ、『佐渡国略記』には「弘治元年（1555）、松浪遊仁砂金山を稼ぐ」、「天正一七年（1589）、上杉代官大井田監物・富永備中」、「太閤秀吉公伏見御在城之節、文禄二年（1593）三月一八日、西三川砂金、毎年三駄宛伏見の御蔵へ納」とあり、毎年、上杉氏から豊臣氏の伏見城に砂金三駄（90貫＝337.5kg）を上納していたことがわかります。

- ② 江戸時代になると小木港が渡海場に定められ、以降は小木港から金銀の積み出しが行われました。

金銀の輸送は、通常、相川の佐渡奉行所から小木へは陸路で運び、一旦木崎神社に納め、小木から出雲崎へは官（幕府）船で渡り、出雲崎から江戸までは北国街道から中山道を経て江戸の御金蔵に納められました。

※金を運ぶ道中については、（一社）佐渡を世界遺産にする会が作成した「御金荷の道PRビデオ」を参考にご覧ください。

https://youtu.be/qDL_M7nNueg

質問2

大立堅坑は近代的ですが、登録の範囲となりますか。

[回答]

明治時代以降の近代施設のため、厳密には大立堅坑（国指定重要文化財）自体は世界遺産の時代設定からは外れることになります。

しかし、佐渡金銀山の歴史的価値を語る上では欠かせないものであるとともに、世界遺産登録の範囲内（国指定史跡）に所在していることから、世界遺産と一体不可分のものとして保存・活用を図って行く予定です。

質問3

佐渡が島の海岸線から近傍の海底付近の調査実施データ等の研究がありますか？能登（宝達山金山）～佐渡が島～鳴海金山～山形銀山温泉～岩手（藤原三代）、その他気仙沼付近が、ほぼ直線上に位置する（方位角西北西 30°）。

[回答]

海底付近の地質学的な調査研究について、佐渡市教育委員会・佐渡ジオパーク推進協議会が発行した「佐渡島の自然（地学編）ージオパーク解説書ー」に「音波探査」の成果が記載されています。

質問4

- ① 相川に4～5万人が住んで、相川は佐渡の人でなく、他国（本土）の人で作られた町と聞きますが、今の佐渡言葉との違いはあるのですか？
- ② また佐渡では能登、福井、寺泊、出雲崎はよく聞くのですが、本土側のどの港から渡ったのか？

[回答]

- ① 佐渡言葉の今昔の違いを判断することは難しく、国内各地からの来島者が多い相川地域内は、現在も様々な言葉が混在しています。
- ② 中世以前は、寺泊や直江津が佐渡への渡航地でしたが、江戸時代になり小木が佐渡側の渡海場に定められると本土側では出雲崎が主に利用され、金銀も小木から出雲崎へ運ばれました。

質問5

毎年の新年会に衆議院議員の出席があったが、この人たちは今回の世界遺産について、どの程度の協力がなされているのか？

[回答]

県選出の国会議員からは、全県的に佐渡金銀山の世界遺産登録を後押しするための組織「世界遺産登録推進県民会議」の顧問として、登録実現に向け取り組んでいただいています。

また、与党議員で作る「佐渡金銀山」世界遺産登録推進議員連盟では、早期の推薦を求める国関係機関への要望・勉強会等について、県市と連携して積極的な活動を行っています。